

作品ID	書名	内容	所有	出版社
139	(1) びどろ	絵馬に描かれた人間が矢を放ち、人を殺した。そうとしか見えない状況に、夢裡庵は首をひねる。死んだのは絵師で、首の後ろには破魔矢が突き刺さり、絵馬には今まさに矢を放ったばかりという射手の姿が描かれていたのだ……。		徳間文庫
140	(2) からく	蛤弁天で売り出された富くじに、江戸の町は大騒ぎ。小料理屋「青馬」でも、常連が富くじの話で盛り上がる。ところがその中の一人・石屋の庄太が、何と百両の一番富を当てたらしい。しかし、どうもおかしな様子の庄太に、千代は不審を抱く……。		徳間文庫
141	(3) 飛奴	捕らえられた盗賊が、今までに盗みに入った店の名前を白状させられた。その中に、このところ天文道師の占いで大儲けしている大坂屋の隠居所の名があったが、なぜか当の大坂屋からは被害の届けがなかったのだ… …。		徳間文庫